



内政

1. 議会は4つの法案を承認

国民議会は、告発法案、労働争議法案、並びに企業法、社会团体法の改正案を承認した。(5日：デイリー・ニュース紙)

2. モレフィ大臣はエネルギー規制当局法案を提出

モレフィ・インフラ科学技術大臣はエネルギー規制当局法案を議会に提出した。同法案は、IPP（独立電力事業者）の計画に対し法的枠組みを与えるものである。ボツワナ初のIPP事業は丸紅・ポスコのコンソーシアムが受注した。

(8日：デイリー・ニュース紙)

3. 警察は求職者をむち打ち

8日、職を求める若者数十名のデモ隊が国民議会に向かっていったところ、それを阻止する警察との間で争いとなり、公務執行妨害による逮捕者や怪我人が生じた。(9日：メヒ紙)

4. 議会は5つの法案を承認し閉会

11日、国民議会では、深夜まで議論の時間が延長され、5法（選挙法、省庁法（最大省庁数決定）、司法サービス法、特別職法（給与改定）、議会法（給与改定））の改正案が議会を通過した。

(15日：デイリー・ニュース紙)

5. ボツワナ議会党は大統領に選挙法の見直しを中止するよう懇願

サレシャンド・ボツワナ議会党（野党BCP）党首は、選挙法改正法案が立候補費の増額、補足的選挙人登録期間の廃止、電子投票の実施といった重要な変更を含むにもかかわらず与党が十分な議論の時間なく議会を通過させたことを不満として、カーマ大統領に対し、同改正法案を承認しないよう要請する書簡を発出した。同党は法的措置も検討している。(16日：メヒ紙)

6. BCL 鉱山は8つの事故を記録

10日、モカイラ鉱物エネルギー水資源大臣は、BCL 鉱山（国営の銅、ニッケル鉱山）ではこの6か月で8件の事故が発生し、死者4名、重傷者13名が出た旨議会で答弁した。なお、この3年では10件の事故が発生している。

(16日：デイリー・ニュース紙)

7. セホコ氏がボツワナ国防軍新司令官に

カーマ大統領は9月2日付でセホコ・ボツワナ国防軍副司令官を新司令官に任命する。

(29日：デイリー・ニュース紙)

外交

1. モイトイ大臣はAUC委員長選に意欲

モイトイ大臣はプレスに対し、AUC委員長選にはまだ意欲を示しており、カーマ大統領より各国に対しこの再立候補につい

て通報された旨述べた。SADCサミットでの承認を経て、明年1月のAUサミットで再度選挙が行われる。また、同大臣は、米国が選挙運動を資金援助しているとの報道を否定した。（4日：デイリー・ニュース紙）

2. 日本、ボツワナは民主主義の共有を通じた団結を享受（50周年記念レセプション）

3日に開催された日・ボツワナ外交関係樹立50周年記念レセプションにおいてモラレ公共政策担当大臣は、1966年の外交関係樹立以来、日本、ボツワナは民主主義、人権、法の支配の価値の共有を通じた団結を享受している旨述べた。尾西大使は、ボツワナは日本にとり信頼できる親友と表現した。（6日：ウィークエンド・ポスト紙、8日：デイリー・ニュース紙）

3. SADCはモイトイ大臣の再立候補を承認

先週マプトで開催されたSADC閣僚理事会でモイトイ大臣のAUC委員長選におけるSADC候補としての再立候補が承認された。同理事会は、月末にスワジランドで開催されるSADCサミットに同承認を勧告する。（当館注：30日、SADCサミットにおいてモイトイ大臣はSADC候補として承認された。）（12日：ボツワナ・ガーディアン紙）

4. アン王女が50周年式典に参加

当地英国高等弁務官事務所は、ボツワナ独立50周年式典への参加のため9月28日～30日にアン王女が英代表としてボツ

ワナを訪問する旨発表した。（13日：ウィークエンド・ポスト紙）

5. シカテ在京大使は帰国

本年末に帰国予定のシカテ在京ボツワナ大使は、日・ボツワナ関係に関し、関係は良好、地デジ等の技術協力が行われている他、モルプレB発電所の増設を丸紅が受注した、日本からの投資は高いレベルではないが進展している等述べた。（19日：ボツワナ・ガーディアン紙）

6. カーマ大統領はSADCサミットに参加

カーマ大統領は30日及び31日に開催されるSADCサミット参加のためスワジランドに滞在中。議長国としての1年間、ボツワナはレソト関連の政治的な課題に対応したほか、食料安全保障、貧困削減、エネルギー・水不足に関する3回の閣僚級ワークショップを開催した。（30日：デイリー・ニュース紙）

経済

1. 経済指標

1) ボツワナの主要経済指数

・経済成長率

2016年第1四半期の経済成長率は、前期比1.8%。

・インフレ率

2016年7月は2.7%（2016年6月は2.7%）。

・為替レート（FNB）

2016年8月31日：

1プラ=0.09米ドル

1プラ=1.295南ア・ランド

1 プラ=9. 387円

2016年7月29日

1 プラ=0. 091米ドル

1 プラ=1. 281南ア・ランド

1 プラ=9. 486円

2. ダイヤモンド産業

1) ルカラ社, 好成績を記録

世界で史上2番目に大きなダイヤモンドを発見したことで有名となったルカラ社(カナダ)の報告によると, 同社の2016年上半期の収益は1億9, 140万米ドルと, 昨年同期の6, 780万米ドルから大幅な上昇を記録した。ランプ同社CEOは, 「ダイヤモンド市場は穏やかな回復傾向にあり, 加えて, ルカラ鉱山からの良質な原石の採掘, 生産コスト削減に関する当社の自助努力が実を結んだ」旨述べた。

(10日: デイリー・ニュース紙)

2) ダイヤモンド産業の陰り

当地弁護士かつ実業家であるマハン氏(当館注: 当地において民間弁護士事務所を開業した初のボツワナ人, 議員経験や大臣経験あり。)は, ボツワナ公認会計士協会による第9回国際会議において, 「2050年まで寿命があると言われているボツワナのダイヤモンド鉱山であるが, 真に恐れるべきは, 鉱山の寿命ではなく人工ダイヤモンドの台頭である」旨述べた。マハン氏によると, デビアス社も人工ダイヤモンド市場への参入を検討している。人工ダイヤモンドは特殊な機材を用いなければ天然ダイヤモンドとの見分けが付かないので, これが普及すれば, 値段も高価である天然ダイ

ヤモンドへの需要はほとんどなくなる可能性がある。

(15日: デイリー・ニュース紙)

3. エネルギー・資源

1) 2016年第1四半期, 鉱業生産指数は5. 4%減

2016年第1四半期の鉱業生産指数は90. 2であり(当館注: 2013年の生産を基準値(=100)とするもの), 2015年第1四半期の95. 6と比較し, 5. 4ポイントの減少となっている。他方, 2015年第4四半期と比べると, 77. 9から12. 3ポイント上昇したことになる。前期からの上昇は, ダイヤモンド, 銅, ニッケル, コバルトマットの増産による。

(6日: ウィークエンド・ポスト紙)

2) ボツワナ, 8億プラの干ばつ被害援助を要請

7月26日に, カーマSADC議長が発表した「SADC域内における干ばつを受けた24億米ドルの人道アピール」を受け, ボツワナ政府は, SADC事務局に対し, 8億6, 100万プラの援助を要請した。当初, ボツワナと南アは同基金の対象外となっていたが, 政府資金だけでは干ばつ被害への対策を十分に実施出来ない事態を受け, この度の要請が行われた。

(18日: メヒ紙)

4. 食肉産業

1) BMC, ベトナムに輸出の意向

ラモツワラ・ボツワナ食肉委員会(BMC)マウン工場マネージャーは, 経由地となるモザンビークでの諸手続が完了すれば,

対ベトナム牛肉輸出を開始する旨報告した。BMCは、ベトナムからの注文を既に受領しているが、モザンビーク政府との調整が長引き、当初の納期予定日から3週間の遅れが発生している。

(21日：デイリー・ニュース紙)

2) 牛肉の対英輸出再開

17日、アウルウェツェ農業副大臣は、フランシスタウン食肉処理場にて生産・処理された牛肉の英国への輸出が可能となった旨発表した。また、同副大臣は、この決定前に、英国からの派遣団が視察に訪れ、該当地域における口蹄疫拡大リスク等につき審査を実施し、牛肉の安全性につき確認したことを報告した。

(18日：デイリー・ニュース紙)

5. 豪による対ボツワナ協力の可能性

アウトルウェツェ農業副大臣は、ボツワナを訪れたアトキンソン・豪ヴィクトリア州議会議長等に対しブリーフィングを行い、農業分野における対ボツワナ協力への期待を示した。同議長は、「ヴィクトリア州は農業分野に優位性を持つ州であり、気候変動にも対応すべく、水源管理及び農業に特化した研究活動に投資しており実績もある」旨述べた。

(1日：デイリー・ニュース紙)

6. ボツワナ銀行、利子率切り下げ

ボツワナ銀行は、現行6%である基準割引率・基準貸付利率(当館注：従来の公定歩合)を5.5%へ切り下げることを選定した旨発表した。この決定は、金融政策の

緩和を通して経済活性化を目指すためのものと見られる。(15日：モニター紙)

7. 電子商取引の不振

ボツワナ通信規制庁は、2014年に実施されたICT調査によれば、国内のインターネットの普及にもかかわらず、電子商取引の利用率が人口の4.6%に留まることを明らかにした。2014年の電子商取引で購入された商品の割合は、衣類・スポーツ用品(32.2%)、書籍(20.4%)、家庭用品(19.5%)、電子機器(18.4%)で、主にSADC地域、欧米諸国の売手との間で取引がなされた。

(26日：メヒ紙)

8. 世銀統計評価において低評価

19日、ムグニ・ボツワナ統計局副局長は、ボツワナが世銀統計評価(WBI)において100点満点中45.5点であったことを報告した。低評価を得た主な要因として、消費者物価指数(CPI)の基準年が10年以上も前である2004年と設定されている点、UNESCOに対する統計報告が行われていない点等が挙げられた。同副局長は、「2018年までには、サブサハラ・アフリカの平均点を超える点数を獲得することを目指す」旨述べた。

(23日：デイリー・ニュース紙, 27日：ビジネス・ポスト紙)

文化

1. 日ボツワナ外交関係樹立50周年記念「和太鼓公演」

日ボツワナの外交関係樹立50周年を記

念し、日本は、和太鼓奏者である廣田丈自氏を招いて和太鼓公演を開催した。廣田氏と3名の奏者は、ソーラン節や秋田音頭を含む9曲を演奏し、観客も歌に参加するなど、終始会場を盛り上げ観客を魅了した。公演で演奏された和太鼓は大きさ、形ともに様々であり、笛やパーカッション楽器も演奏された。廣田氏は、渡辺貞夫氏に続き、今年ポツワナで公演をした2人目の日本人音楽家となった。

(5日：デイリー・ニュース紙、9日：メヒ紙、12日：ガーディアン紙)

2. 日本映画祭の実施

10日から14日までの間、ハボロネ市内の映画館にて、日本大使館及び国際交流基金の共催による第8回日本映画祭が開催された。今年度の上映作品は、「手紙」、「きみはいい子」、「ペコロスの母に会いに行く」、「海炭市叙景」、「ぐるりのこと。」で多くの人々が訪れ、盛況となった。

(15日：デイリー・ニュース紙、16日：メヒ紙)

3. ポツワナ見本市への出展

22日から28日までの間、ハボロネ市内で当地最大級のイベント「ポツワナ見本市」に日本大使館のブースが出展された。同大使館は来場者に対し、日本文化、留学等に関する情報提供、法被及び浴衣の試着、折り紙、書道、日本語会話レッスン等を行った。

(25日：デイリー・ニュース紙)